

中国の「国境文化」の人類学的研究

著者	塚田 誠之, Tsukada Shigeyuki, ツカダ シゲユキ
発行年	2013-03-31
その他のタイトル	The Culture of Ethnic Groups in Border Areas of China
URL	http://hdl.handle.net/10502/5668

はしがき

1. 研究目的

中国は陸上で14カ国もの隣接国と国境を接している。人為的に区切られた国境は、人々の生活圏を分断して形成されてきた。国境はウイグル・チベットなどに見られるように往々、民族問題の火種になってきた。また、国境地域はエネルギー資源の宝庫であり、経済圏が形成されてきた。中央政府は国家統合のためにも、国境地域をきわめて重視してきた。その国家の境界としての位置付けは民族の文化やアイデンティティ形成に多大な影響を及ぼしてきた。国境地域では、民族のネットワークによる結び付きが強く、文化の特徴が明確で、アイデンティティが保たれ、独自の国境文化が形成されてきた。国境文化の理解に当たって、次の点の検討が不可欠であろう。

1. 国境文化が形成される前提となる歴史的プロセスの検討。国境意識は中華民国期に芽生え、中華民国から人民共和国内期にかけて国境線が画定されて行った。それにともない人々の生活圏が分断された。国境画定とそれともなう民族の動向や文化の変化を検討する。
2. 清末・中華民国期には大量の漢族が国境地域に移住したが、現地の民族がそれによってどのような影響を受けたのかを検討する。
3. 改革開放以降、現在にいたる国境地域の諸民族の社会・文化やアイデンティティの動態について検討する。国境線をはさんだ中国と近隣諸国の双方の民族の文化の比較や、国境を隔てて同じ、あるいは同系の民族同士がどのようなネットワークをいかに形成し、人々がどのようにアイデンティティを保持しているのか。ネットワークには個人や家族・親族、さらには同郷出身者といった人間関係から交易、宗教活動など多様な結びつきが含まれるが、その実態を検討する。また、人々の視点から国境文化はどのようにイメージされているのかを検討する。
4. 国境は、国家にとっても、またそこに暮らす人々にとっても安全保障にかかわっている。この点から、国家が国境の民族をどのように統合してきたのか、また民族側がそうした政策にどのように対応してきたのかを検討する。
5. 国境地域における最新の動向について検討する。国境の資源化とそれをめぐる人々の動き、流動人口の国境地域への移住とそれともなう移民コミュニティの形成、地域経済圏の創出、宗教について世俗化と原点回帰のはざままで揺れ動く人々、また儀礼を女性が司祭・執行するなど、個別の地域・民族の事例にもとづいて検討を行う。

本研究は中国南北の国境地域における民族文化の比較検討を通して、国境地域に独自に発展したであろう国境文化の核心を把握することを目的とする。

研究目的（英文）

The People's Republic of China has land borders with fourteen countries. The borders have artificially divided traditional socio-cultural spheres among local peoples, contributing to ethnic conflicts such as those seen in Tibet or Xinjiang. The frontier regions are also treasure houses of energy and other resources. The central government has therefore regarded these regions as particularly important for national integration and the economy. In response, local peoples have formed and maintained tight ethnic networks to preserve their particular cultures and identities, and for mutual support. The purpose of this project is to compare the core elements of ethnic cultures in border areas of southern and northern China.

Firstly, we will consider ethnic mobility and historical changes in frontier cultures and societies since the delimitation of borders. Secondly, we will clarify main changes in their societies, cultures and identities since the introduction of market economy policies (in the 1980s) to the present, through field research by project members. In this process, we will emphasize the understanding of local viewpoints. We trust that by comprehending the present situation of ethnic cultures in border areas of China, we can contribute to the prevention or reduction of ethnic conflicts and to human security in the contemporary world.

2. 研究組織

研究代表者

塚田誠之（国立民族学博物館民族文化研究部・教授）

研究分担者

大野旭（楊海英）（静岡大学人文社会科学部・教授）

松本ますみ（敬和学園大学人文学部・教授）

長谷川清（文教大学文学部・教授）

吉野晃（東京学芸大学教育学部・教授）

武内房司（学習院大学文学部・教授）

樫永真佐夫（国立民族学博物館研究戦略センター・准教授）

3. 交付決定額（配分額）

（金額単位：千円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 22 年度	4,800	1,440	6,240
平成 23 年度	4,200	1,260	5,460
平成 24 年度	4,600	1,380	5,980
総計	13,600	4,080	17,680

4. 研究発表

(1) 学会誌等

塚田誠之

2011 書評「写真は時代を映し出した——李紹明・松岡正子編『四川のチャン族——汶川大地震をのりこえて〔1950-2009〕』」『中国 21』Vol.34、323-330 頁。

2011 「中国における諸民族の文化資源を考える」『民博通信』132 号、国立民族学博物館、20-21 頁。

2011 「有関壮族年齢組（朋友）的考察」『广西民族大学学报（哲学社会科学版）』第 33 卷第 1 期、85-92 頁。

2012 「漢族と非漢族との相互影響について——広西の「蔗園人」の習俗に関する一考察」瀬川昌久編『近現代中国における民族認識の人類学』昭和堂、73-104 頁。

2012 「中国における民族文化の資源化とポリティクスに関する中間報告」『民博通信』136号、国立民族学博物館、14-15頁。

楊海英

2011 「西部大開発と文化的ジェノサイド」、『中国21』Vol.34、117-134頁。

2011 「“中華民族”概念的再創造和蒙古民族史的再改写」『人文論集』（静岡大学人文学部）61巻1・2号、1-14頁。

2012 「植民地支配と大量虐殺、そして文化的ジェノサイド——中国の民族問題研究への新視座」『思想』No.1060、140-155頁。

2012 「沙甸村の殉教者記念碑」『中国21』Vol.37、227-234頁。

松本ますみ

2010 「見知らぬ民を「知る」ことと「仲間」と考えること：『良友』画報に見る西北少数民族の表象」『近きに在りて』58、2-18頁。

2011 松本真澄 涂華忠訳「近現代雲南回族的伊斯蘭改革与認同転型」『雲南回族研究』No.2、30-44頁（2011「近代雲南ムスリムのイスラーム改革と変容するアイデンティティ」塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流』有志舎、206-236頁の中国語訳）

2011 「もう一つの女性解放と開発に向けての選択?：中国における再イスラーム化と女学」『女性・戦争・人権』第11号、89-116頁。

2011 「孫中山の『徹底した民族主義』——近代的統一への幻想」王柯編『辛亥革命と日本』藤原書店、212-236頁。

2011 Matsumoto, Masumi and Shimbo, Atsuko. “Islamic Education in China: Triple discrimination and the challenge of Hui Women’s madrasas”, in Sakurai Keiko, Fariba Adelhah eds, *The Moral Economy of Madrasa Routledge*, pp.85-102.

2012 「回族の民族教育と生活実態に関する一考察」『中国朝鮮族と回族の民族教育と民族アイデンティティ形成に関する総合的研究』（研究代表者：松本ますみ）平成20～23年度日本学術研究界科学研究費補助金 基盤研究（B）課題番号20320113 研究成果報告書、2012年3月、250-277頁。

2012 「上海の大衆雑誌『良友』画報にあらわれた日中戦争時の日本・日本人表象」『敬和学園大学人文社会科学研究所年報』No.10、15-34頁。

2012 書評「王柳蘭著『越境を生きる雲南系ムスリム——北タイにおける共生とネットワーク』」『中国21』Vol.37、221-226頁。

2012 「中国ムスリムとは何か?」「回族とは何か?」「中国のムスリマ（ムスリム女性）の自尊・自立への旅」「回族の女寺と女学」「中国史に名を残したムスリム」「回民軍閥」「愛国は信仰の一部」「黄土高原で聞いたアラビア語」、中国ムスリム研究会編『中国のムスリムを知るための60章』明石書店、18-29頁、36-40頁、61-63頁、168-172頁、203-207頁、238-242頁、243-247頁、287-291頁。

長谷川清

2010 「中国・ビルマ国境地域の仏教復興と儀礼の再活性化——雲南徳宏州、タイ族の事例から」鈴木正崇編『東アジアにおける宗教文化の再構築』風響社、111-145頁。

2011 座談「開発と文化遺産」『中国21』Vol.34、3-28頁。

2012 「少数民族教育と中華民族多元一体構造論——雲南・徳宏タイ族の学校教育の事例から」瀬川昌久編『近現代中国における民族認識の人類学』昭和堂、168-203頁。

吉野晃

- 2010 「タイ北部におけるユーミエン（ヤオ）の儀礼体系と文化復興運動」鈴木正崇編『東アジアにおける宗教文化の再構築』風響社、273-299頁。
- 2011 「〈掛三台燈〉の構造と変差：タイ、ラオス、中国湖南省藍山県のユーミエンにおける〈掛燈〉の比較研究」『瑶族文化研究所通説』（神奈川大学ヤオ族文化研究所）3号、35-40頁。
- 2012 「タイ北部、ユーミエン（ヤオ）の船送り」『国際シンポジウム報告書Ⅲ “カラダ”が語る人類文化—形質から文化まで—』（国際常民文化研究機構・神奈川大学常民文化研究所）、141-147頁。
- 2013 「廟と女性シャーマン—タイ北部、ユーミエン（ヤオ）の新たな宗教現象に関する調査の中間報告—」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系Ⅱ』64巻、115-123頁。

武内房司

- 2010 「ヴェトナム國民黨と雲南——滇越鐵路と越境するナショナリズム」『東洋史研究』69巻1号、92-122頁。
- 2010 「地方統治官と辺疆行政—十九世紀前半期、中国雲南・ベトナム西北辺疆社会を中心に—」山本英史編『近世の海域世界と地方統治』、汲古書院、171-201頁。
- 2011 『『宝山奇書』考——中国的メシアニズムとベトナム南部民衆宗教世界』武内房司編『越境する近代東アジアの民衆宗教——中国、台湾、香港、ベトナム、そして日本』明石書店、23-36頁。

樫永真佐夫

- 2010 「フィールドワークにおける人間関係」『民博通信』130号、国立民族学博物館、2-7頁。
- 2011 「東南アジア少数民族の年代記と歴史研究——ベトナムにおける黒タイ年代記の分析から」『歴史と地理——世界史の研究』226巻、1-15頁
- 2012 「盆地の生活と変化——ターイ族の暮らし、民族雑居」今井昭夫、岩井美佐紀編『現代ベトナムを知るための60章（第2版）』明石書店、100-103頁。
- 2012 「西北地方の町の市場」今井昭夫、岩井美佐紀編『現代ベトナムを知るための60章（第2版）』明石書店、132-134頁。

(2) 口頭発表

塚田誠之

- 2011 “Interaction between the Zhuang and the Nung in the Chinese-Vietnamese Border Area, their Networks and Characteristics of Society”: *International Conference: Ethnic Interaction in the Context of Globalization in Southwest China and its Relationship with Southeast Asia*, Yunnan Univ. Kunming, China. (2011. 6. 18)
- 2011 「中国西南地区族群的遷徙與交流」第三屆「族群、歷史與地域社會」國際學術研討會、中央研究院臺灣史研究所、臺灣、9月23日。
- 2011 「チワン族の繡球文化——その実践とシンボリズム」国際シンポジウム「グローカルの中の文化伝承」、国立民族学博物館、11月26日。

楊海英

- 2010 「モンゴルがもたらしたイスラーム、モンゴルから離れるイスラーム」、日本モンゴル学会、桜美林大学、5月15日。
- 2010 「アジア内陸部における自然と文化交流——文明論的認識の再検討と再構築」静岡大学哲学学会、11月3日。
- 2010 「中国文化大革命とモンゴル人大量虐殺運動——民族問題の本質」長崎純心大学比較文

- 化学科公開講座（第4回地理歴史教育研修会）、長崎歴史文化博物館、11月20日。
- 2010 「中国文化大革命とモンゴル人大量虐殺事件——民族問題とジェノサイドの関連性」石田勇治東京大学教授代表「ジェノサイド研究の展開」、東京大学（駒場キャンパス）、12月19日。
- 松本ますみ
- 2010 「佐久間貞次郎对中国伊斯蘭的活動和上海穆斯林：圍繞着一個亜州主義者的考察」“Nanjing University-Harvard-Yenching, Fourth Dialogue between Chinese and Islamic Civilizations,” Nanjing University, Nanjing, China. (2010. 6. 11-12)
- 2011 「中国西北とイスラーム世界を結ぶ結節点、義烏の移民ムスリムたち」第6回 CIAS 談話会「移動がうみだす地域を考える——Asian Muslim の視点から」、京都大学地域研究統合情報センター、1月21日。
- 2011 「見えない人種と中国国民統合のポリティクス：『中華大家庭』表象のエスニシティとジェンダー」、京都大学人文科学研究所人種研究会、京都大学人文科学研究所、12月3日。
- 2011 「信仰深さによる抵抗：イスラーム教育を受けた回族女性」、中国ムスリム研究会10周年記念大会シンポジウム、早稲田大学、12月18日。
- 2012 「1930年代中国ムスリムの国際関係認識と衛教：イスラーム雑誌にみる世界情勢」、イスラーム地域研究 上智大学拠点公開研究会「アジアのムスリムと近代：1920～1930年代の出版物を資料として」、1月29日。
- 2012 「回族の省境・国境を越えた移動とアイデンティティ」、国際シンポジウム「越境する中国のエスニック・マイノリティ：朝鮮族の場合」、早稲田大学、3月24日。
- 2013 “Why was Persian Learning Excluded?—Secularization and Modernization of Islam in China”, Panel 164, Chinese Muslims and the Arabic Language: Authority, Authenticity, and Communication—Sponsored by China and Inner Asian Council, March 22, 2013, *Association for Asian Studies, 2013 Annual Conference at Manchester Grand Hyatt, San Diego, U.S.*

吉野晃

- 2011 「ミエン社会の変容と私の研究」南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター人類学部会シンポジウム「タイ北部山地民の過去・現在・未来」、南山大学名古屋キャンパス、10月16日。
- 2011 「〈掛燈〉儀礼の構造と差異：タイと湖南省藍山県のミエンにおける〈掛燈〉儀礼の比較」、神奈川大学ヤオ族文化研究所 ヤオ族伝統文献研究国際シンポジウム、神奈川大学横浜キャンパス、11月23日。
- 2011 「タイ北部、ユーミエン（ヤオ）の船送り」国際常民文化研究機構第3回国際シンポジウム「カラダが語る人類文化—形質から文化まで—」、神奈川大学横浜キャンパス、12月11日。

武内房司

- 2010 「從西江走廊看十九世紀前期的中越關係——以雲南和越南西北部傣族社会為中心的考察」香港・中文大学、香港・科技大学、中国・中山大学主催『「明清帝國的建構與中國西南土著社會的演變」國際學術研討會』、中国、広州、中山大学、6月20日。

(3) 出版物

塚田誠之

- 2013 『西南中国少数民族の文化資源の“いま”』（国立民族学博物館調査報告109）、142頁。

楊海英

- 2011 『続 墓標なき草原——内モンゴルにおける文化大革命・虐殺の記録』岩波書店、336頁。

- 2011 『モンゴル人ジェノサイドに関する基礎資料 3——打倒ウランフー（烏蘭夫）』（内モンゴルの文化大革命 3）、風響社、1087 頁。
- 2011 『モンゴル人ジェノサイドに関する基礎資料 4——毒草とされた民族自決の理論』（内モンゴルの文化大革命 4）、風響社、936 頁。
- 2011 『王朝から〈国民国家〉へ——清朝崩壊 100 周年』（『アジア遊学』148）勉誠出版、148 頁。
- 2013 *Ulanhu, A Nationalist Persecuted by the Chinese Communists——Mongolian Genocide during the Chinese Cultural Revolution* (afro-urasian inner dry land civilization collection 5), Comparative Studies of Humanities and Social Sciences Graduate School of Letters, Nagoya University, p.102.

松本ますみ

- 2010 『イスラームへの回帰：中国のムスリマたち』山川出版社、113 頁。

松本ますみ編

- 2012 『中国朝鮮族と回族の民族教育と民族アイデンティティ形成に関する総合的研究』（日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（B）報告書、研究課題番号 20320113、研究代表者松本ますみ）、283 頁。

武内房司

武内房司編

- 2011 『越境する近代東アジアの民衆宗教——中国、台湾、香港、ベトナム、そして日本』明石書店、373 頁。

武内房司編

- 2012 『アジアと日本（日記に読む近代日本 5）』吉川弘文館、272 頁。

樫永真佐夫

- 2011 『黒タイ年代記——「タイ・プー・サック」』雄山閣、163 頁。
- 2013 『黒タイ歌謡「ソン・チュー・ソン・サオ」——村のくらしと恋』雄山閣、235 頁。

もくじ

はしがき	1
現代中国における少年の洗脳方法 絵本小児書が描く辺境新疆の歴史と文化	楊 海英 9
もう一つの親族、“ラオトン” チワン（壮）族とベトナム民族とのネットワークの一側面	塚田誠之 39
雲南におけるイスラーム回帰現象と中阿学校 世俗化・漢化は克服できるか	松本 ますみ 59
中国・ミャンマー国境地域における 流動人口・ネットワーク・ローカル権力 雲南省徳宏タイ族ジンポー族自治州の事例を中心に	長谷川 清 79
国境貿易の発展と在地性 ベトナムとラオスの黒タイの事例	樫永 真佐夫 99
固定的祭祀施設と女性の儀礼参加 タイ北部国境地域のユーミエン（ヤオ）における 新たな宗教現象に関する調査報告	吉野 晃 113
資料紹介 ミリベル「ライチャウ視察報告書」（1908年）	武内房司 121